

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	つないで支える地域の輪、子ども食堂の輪
資金分配団体名:	一般社団法人全国食支援活動協力会
実行団体名:	特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブういず
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	千葉県
事業対象者:	子ども食堂実施団体。母子福祉施設。

Version 3.2

日付: 2022年3月21日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>【実施計画】子ども食堂等の居場所事業を行う団体や施設とのネットワークの形成。子ども食堂等の居場所事業を行う団体や施設への食材の配布や保管管理。子ども食堂等の居場所事業を行う団体や施設のコロナ禍でのお困りごとや課題を拾う。</p> <p>【実際に実施した概要】子ども食堂等の居場所事業を行う団体や母子福祉施設とのネットワークを形成し、子ども食堂や母子福祉施設へ食材の配布や保管管理を行った。多くの実施団体と顔がつながり、おたがいさまの支え合いの関係性ができた。寄付食品は、当団体が開催する子ども食堂で活用した。加工品の寄付食材で厨房スタッフの作業効率もアップし、労力の軽減にもつながり、栄養価や彩なども考えた献立の組み立てや、余裕ができたことで配って終わりにしない子供たちとのより密な交流も可能になった。子ども食堂等の居場所事業を行う団体や施設とコロナ禍でのお困りごとや地域の課題をわいわい会議で共有した。</p>
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>・コロナ禍でフードパントリーに切り替えた子ども食堂等も多く、配布必要数が増えている。また、公共機関や施設を使って子ども食堂を開催してきたところは休止に追い込まれていて、直接つながる機会を作るのが難しかったので、地域の子ども食堂の中間支援組織やフードバンクを介して実施している団体と状況把握とネットワークを形成を試みた。食材の配達と運搬は、実施団体に、直接届ける方法と、中間支援組織を通じて食材配布をお願いする形も取り入れた。食材の配達を通じて、よその団体とも顔見知りになることができ、また、中間支援組織との会議（わいわい会議）を通じてより広域に客観的に地域の課題を知ることができた。中間支援組織と当団体独自のネットワークで県内外の総勢32団体と繋がった。</p> <p>・6月～11月の中旬までは、当団体で保管と管理をした。12月に入って荷量が増えたので、ハブ拠点の天津ヶ丘子ども食堂が入っている商店会の空き店舗を保管場所として使用できるように都市整備公園と交渉している（継続中）。また、とうかつ草の根フードバンクと連携して保管と配布を行った。</p> <p>・当団体が実施している子ども食堂の現場からお困りごとを拾うだけでなく、「わいわい会議」や「食でつながるフェスタinちば」の実行委員会事務局を務めたことで、実行委員会の中で千葉県社会福祉協議会や柏市の社会福祉協議会、千葉県子ども食堂連絡会、フードバンクちば等の代表の方々との話し合いの中で県全体の食支援活動の実態と、実施団体の活動者や支援者が置かれている状況や課題を共有することができた。</p>
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
ひとり親	連携の不足	①子ども食堂等の居場所事業を行う地域の団体や施設と繋がっている状態	①食品や食材の寄付を受け取った地域の居場所等の団体数	①地域の居場所事業所等との連絡会仮称「わいわい」を通じて40団体と繋がっている	柏・松戸・船橋・我孫子・野田・佐倉・府中市の8市、38団体（リハビリ病院施設内の居場所2団体含む）と繋がった。	今回の事業を契機に新たに繋がった子ども食堂の実施団体とのネットワークだけでなく、生協活動や高齢者の居場所事業、生活支援事業での既存のネットワークの相乗効果もありさらに成果をあげることができた。
ひとり親	食料関連の不足	②各団体への参加者数や必要な食品の数が把握できている状態	②食品配布世帯数	②地域の各団体から50～80世帯に食材や食品が配布されている。	総数1000世帯以上に食支援活動をおこなってきた	各団体の実施日や回数、参加人数を聞き取りおおよその必要数を把握できた。各食堂が、フードパントリーに形を変えたことで以前より多くの世帯に食品の配布が可能になっている。
ひとり親	事業実施上の困難	③各団体の活動エリア内で効率よく食品を受け取ることができるようにハブ拠点が形成されている状態	③各ハブ拠点が配布可能な団体数。冷凍冷蔵庫やストッカーの設置数	③ハブ拠点が4か所以上に設置できている	ハブ拠点：柏市天津ヶ丘・佐倉市・松戸市、千葉県連合会（柏市）にハブ拠点を置いた。	ハブ拠点と密に連絡を取れたことで、子ども食堂で夫々が工夫していること、課題も共有でき活動を進めていく上でとても参考になった。
中間支援者	事業実施上の困難	④情報の受発信により、地域の課題が把握され共有できている状態	④ネットワーク会議への参加登録者数、相談件数、要望や意見の数	④連絡会が主催するネットワーク会議（仮称・わいわい会議）に20団体10人以上の個人が参加している	わいわい会議 参加団体 柏市子ども食堂連絡会、松戸子ども食堂の会、とうかつ草の根フードバンク、ワーカーズ千葉県連合会。	毎月不定期で会議を開催。参加者数は平均5名程度。子ども食堂の形態は多様。地域性や居場所として始まったか、食支援活動を特色にするか、コロナ禍で貧困対策として始まったかによっても活動者の負担感やモチベーションの違いがある。その違いがあることがわかった。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>・千葉県柏市を拠点に県内外の子ども食堂等居場所事業所とのネットワークが形成・拡充されている状態。</p> <p>・千葉県柏市を拠点に県内外の子ども食堂等居場所事業所への運搬ルートが開拓されている状態。</p> <p>・各団体に必要な物が必要な数だけ届くようにシステム化されている状態。</p> <p>・子ども食堂等の活動が地域に根付いた活動となるように、また団体が孤立しないよう課題の共有や情報の発信を通じたサポートができる状態。</p>
考察等	<p>・ハブ拠点が4つできた。今後も活動の持続に向けて、活動者の経済的な負担や労力の軽減が図られるなどができることと非常にありがたい。人や労力に余裕ができれば、次への展開・地域の課題の拾い出しや、相談事業へのアプローチや、地域に繋げる機能の開発に向かうことができる。地域の期待にも応えられている。・ただ、子供たちを取り囲む課題に子ども食堂で解決できる範囲には限界があり、今後ますますのネットワークの形成と行政の支援を要請していくなど、地域との協働、ソーシャルワーカーとの連携を模索して、サポートに繋がるよう、今後も取り組むたい。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
1. 月2回程度の食品受け取り。ロジ拠点の機能強化。	ほぼ計画通り	ロジからハブに自家用車で食品を届ける。ハブから子ども食堂への運搬などを車のリースを検討したり、自家用車で試行して、次につながるトライアルとした。保管スペースの確保等、レンタルスペースも検討したが、十分に対応しきれずに課題として残った。
2. 地域の活動団体の把握。食品の受け取りを希望する居場所等との連絡会（仮称）「わわわ会」を通じて緩やかなネットワークを形成。	ほぼ計画通り	わわわ会議構成員：柏子ども食堂連絡会、とうかつ草の根フードバンク、ワーコレ子ども食堂連絡会。 ※柏子ども食堂連絡会所属団体25団体。ワーコレ子ども食堂連絡会5団体。
3. 月2回程度の食品配布（運搬）。ハブ拠点の開拓。ハブ拠点からの連絡網の整備。	ほぼ計画通り	・ハブ拠点①大津ヶ丘子ども食堂からとうかつ草の根フードバンクと柏市子ども食堂連絡会へ繋がり、連絡網が整備された。・ハブ拠点②ワーカーズコレクティブ風車（佐倉市）から、佐倉市子ども食堂連絡会への繋がりが不十分で滞っている。ハブ拠点③新松戸七丁目の家（母子福祉施設）から先の展開が不十分。→松戸子ども食堂連絡会と繋がりが松戸エリアを整備中④ワーカーズコレクティブ千葉県連合会を通じての連絡網と食品配布ルートの確保。県内4か所、県外1か所。
4. 食材配布時の実態調査（アンケート調査）を実施。アンケートの回収と分析。	遅延あり	2021年度コロナ禍における食支援活動の現状と食材支援に関する調査（千葉大清水先生）に参加し、東京でのフェスタで報告を聞いた。また、食フェスの千葉開催に向けて、実行委員会の中で清水先生を講師に研修会が開かれたが状況の共有はされたが、助成期間内で、千葉県独自の調査に向けたアンケートの実施するまでには至らず、今後、実施を検討していきたい。
5. 7月～2月迄、月1回、計8回程度のネットワーク会議（仮称）「わわわ会議」を開催し、地域の課題や団体の活動情報を共有する。	計画通り	月1わわわ会議経7回（6月、9月、10月、11月、12月、1月、2月）。他、個別会議；子ども食堂実施団体個別会議6回（9～2月毎月1回） 生協との物流システム会議（6月・8月・10月・2月）5回。企業3回（AGP・柏ライオンズクラブ）。
6. 配達運搬システムの開拓（構築）。生活クラブ生協千葉。ワーカーズコレクティブ千葉県連合会。柏市社会福祉協議会。風早北部ふるさと協議会。全国食支援活動協力会。	遅延あり	助成事業期間の前半（6月～11月）までは、当団体のスタッフが運搬システムを開拓。12月以降は、既存のシステムと乗り合わせて配達先を開拓。当初想定した生協や社会福祉協議会、ふるさと協議会とは直接的な運搬システムの開拓にはつながらなかった。一方で、地域の子ども食堂中間支援組織からのネットワークに乗り合わせて配達ルートを確保できた。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	MOWシステムのロジ拠点となり、また別事業で「食でつながるフェスタinちば」の実行委員会事務局を担ったことで、子ども食堂実施団体だけでなく、支援者側となる行政（子ども福祉課）や社会福祉協議会や中核地域支援センター、さらにはフードバンクや県内企業ともつながり、また多くの寄付食材や活動への支援者の輪が広がった。地域に食支援活動への理解や共感も広がることができた。安定して食材の寄付が届くことで、活動者の金銭面の負担も軽減され、また加工食品や調味料の寄付は、調理スタッフの労力や作業負担でのストレスが軽減された。また栄養価の高い献立の提供が可能になり、利用者に好評でリピーターの多い信頼の高い子ども食堂の運営となった。
---------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	長引くコロナ感染症の影響で、利用者となる子育て世帯の困窮は深まり、また子供たちにとって必ずしも家庭が安全な場所となっていない事、親のストレスも救済する必要があることなど状況は悪化している。一方で、子ども食堂への認知や子ども食堂を支援したいという人や団体が増えている。これは他の高齢者の居場所づくりにはない現象ではないかと思う。一過性のブームで終わらないことを願っている。と同時に、次の展開、食品を配って終わりにしない、子どもが黙って放っておいていられる場所や相談事業や相談を繋ぐ先とのネットワークなどの環境整備が急務。また、今後の活動として、必要な人に必要な量の食品の配布が適正に配分されていくように、市場に出回らず廃棄されてきた農産物の加工や冷凍保存の技術を駆使して、一定量の食品配布が可能になるシステムづくりを物流システムと一緒に構築していきたい。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
フードバンクちば	11月6日 流通経済大学正門前で開催された子ども食堂での食品提供 物流システムの課題などを共有した
千葉県子ども食堂連絡会	11月6日 流通経済大学正門前で開催された子ども食堂での共催 柏市・松戸市・我孫子市等の子ども食堂の実施団体と繋がった
ちばのWA福祉基金	千葉県内の子育て支援や食堂を開催しているNPO団体の情報を得て、食品を届ける等ができた
千葉県社会福祉協議会	県内の食支援活動等の取り組みについて、情報の提供や課題把握等の協力が得られた
柏市子ども福祉課	ひとり親家庭 児童手当世帯への子ども食堂開催のお知らせ連絡網の作成

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	3,997,000	3,576,083	89.5%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		3,997,000	3,576,083	89.5%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	当団体のHP・SNSでの公開
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	なし
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	購入した冷凍冷蔵庫にシンボルマークを貼り付けて活用。 お弁当の包材への貼り付け
4.報告書等	日本協同組合連携機構（JCA）共生フォーラムでの事例報告 つがる経済フォーラムちば（社会連帯経済）での事例報告

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	https://with-kitchencar.org/index.html
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	